

国際交流部活動報告「南米文化を学ぶ」

室蘭在住でボリビア人のルイス・コンチャさんを講師にオンライン交流を実施しました。日本に長く暮らしている講師から、日本の住みやすさ、南米の独自の文化を紹介してもらいました。



【振り返り】

★今回の講義では、ボリビアの文化や考え方について詳しく学ぶことができた。一番印象に残っていることは、日本で暮らしてみて、日本人との時間に対する考え方が違うことだ。私は、時間は絶対に守るべきで時間前に行動することが当たり前だと考えている。しかし、ボリビアの人は集合時間の2時間後に集まったりしていたという話を聞いてとても衝撃を受けた。真面目すぎると体調を崩したりしてしまうから、ボリビアの人達のように問題を深く心配しすぎないという心持ちで過ごすことも重要であると学び、日本との違いについて知ることができた。

★今回はボリビアの地理や文化を学ぶことができました。特に印象に残っているのは標高が富士山よりも高い場所に住んでいる人がいるということです。酸素は足りるのか気になって調べてみると、多くの観光客が高山病を認められ体調不良を起こすためほとんどのホテルでは酸素ボンベが常備されているそう。また、酸素を売っている店もあるくらいで、職場にも自宅にも酸素ボンベがあり、気分が悪くなったときや眠れないときに使うそうです。日本では到底考えられないなと思い、高地に住む人の苦労を伺えました。他には、日本がどれだけ恵まれているか、異文化間での交流がどれだけ難しいかなどの体験談を聞くことができ、自分のお置かれている状況を客観視するいい機会となりました。